

2005
2月10日号89
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://www.yo.rim.or.jp/~fart> メールアドレス fart@yo.rim.or.jp

主体的な役員評価と自己研鑽を



会長 片倉 俊彦

現在、福島県における生涯教育プログラムの実施状況は全国的に見て低いレベルにある。

これは私がアドバンスやシニア、マスターといった内部における差別と各種資格の受験料徴収に大きな不満を持つことによる。このことから、本県の企画は必要最小限の試験開催と最大限のスキルアップに必要な研修会を意図している。

各種試験による資格の社会的価値は未知であり、技師会内部のみのものであるにもかかわらず数千円の受験料を徴収する。これは現在の本部役員による運営が儲け主義と解される所以である。度重なる批判によって金額は安くなっているが本質は変わっていない。しかしながら、この資格が将来どのような形に変化するものか予測が困難であることから、受験希望者が多ければ開催手続きをとっている。

研修会については研究会やメーカーとの共催によって会員の負担を押さえているが内容は放射線技師自身による企画であり、生涯教育カリキュラムの単位を満たすものも多い。私はこの受講者の努力をムダにしない技師会運営を本部役員に望んでいる。しかしながら、現状は惨憺たる有様である。運営の独断専行ぶりは監事にも手に負えない程度となり、講習会テキストが著作権侵害で訴えられ損害賠償を請求される有様である。この講習会は、放射線技師の業務を病院外にまで拡大しようとする目論みによるが現状は自らの所業でその芽を摘んだ感さえある。何もしない方が自然に放射線技師を頼らざるを得ない状況だったかも知れない。何とも情けない話である。福島県放射線技師会を代表するものがこのような言を吐露して許されるものだろうかと思慮するところであるが、これが現実である。

この現実を一日も早く正常な姿に変えることが急務である。このために二つのことを重点的に行い会員の協力を御願ひしたいと考えている。一つは現在の本部役員を早急に交代させることである。他の一つは診療放射線技術スキルアップのための研修会の開催である。この二つは表裏一体であり、如何に優秀な役員がリーダーとなっても構成会員がボロボロではどうしようもないことである。

近年の地域住民の医療職に対する期待は高品位医療を提供できるという保証とその責任の所在である。このためにやらなければならないことは日常的な研修であり、研修をしているという証明である。従来は研修をしているという証明があればよしとしたが最近では更にどの程度の効果があったかということまで求められており、単なる自己申告では通用しない面もある。現状の技師会の混乱を理由に研修をサボルことは自らの職業を放棄するに等しいことを自覚し、積極的な研修参加を御願ひしたい。

永年勤続表彰候補者申請(日放技)完了

日本放射線技師会では、診療放射線技師免許またはエックス線技師免許取得から30年以上、業務歴30年を有し、15年以上日本放射線技師会に所属する会員を表彰しています。今年度は、昭和50年3月末までに免許取得者が対象でしたが、本会から18名の推薦申請依頼がありましたので2月1日付で日本放射線技師会に推薦しました。日本放射線技師会では30年表彰を受けた方は、10万円の納入によって以後の会費を生涯免除する規定が出来ることから、すでにこの制度を利用する会員もおられます。有資格者は本会を通じて手続きしてください。

また、今回30年表彰該当者調査をしましたが、回答を返送されない方が数名おります。次年度以降の意志を確認する内容です。未送付の方は必ず返送ください。

永年勤続表彰候補者申請(県技師会)受信中

県技師会では、来る5月14日に飯坂温泉で開催される総会時に本会会員の永年勤続20年表彰を行います。

資格は昭和60年3月までに卒業し、同年までの免許取得者です。転入の会員を含め該当者は各支部に申告してください。

福島県成人病検診管理指導協議会

乳がん部会開く

1月31日、福島県成人病検診管理指導協議会乳がん部会が福島市杉妻会館で開催され、本会から事務局長がオブザーバーとして出席しました。

増加傾向を示す本県乳がん死亡率を下げるため検診受診率向上計画などが話し合われました。17年度は全市町村でマンモグラフィまたはマンモグラフィプラス視触診が実施される予定ですが、装置、マンパワーとも不足している状況です。本会としても有資格者の確保と技術水準の維持のため次年度以降も講習会実施に助成を要望しました。県の試算では、登録有資格者が38名不足と女性資格者の増員のため継続して委託の方針であるとのこと。有資格者の地域的偏りも考慮しているようです。

本会では、次年度以降の講習も継続実施しますので、効果を高めるための予習を期待します。

学術講演会の案内

下記により学術講演会を開催します。この講義は会員の生涯学習として行うもので受講者には生涯学習カウント

を付与します。また、日本放射線技師会では、技師格としてアドバンスDRTを設定していますが、その取得条件の看護学講義の一部として算定しますので受講を勧めます。

日時：平成17年2月19日(土)15時から

場所：杉妻会館 福島市杉妻町3-35

(024-523-5161)

講義Ⅰ、放射線技師のための看護学概論

「老人看護とは」

講師：県立医大看護学部生恵看護学部門

老人看護学領域

助教授 小平 廣子 先生

講義Ⅱ、放射線技師のための看護学概論

「障害看護学の視点」

講師：県立医大看護学部家族看護学部門

家族看護学領域

助教授 粟生田 友子 先生

福島県放射線管理士部会からのお知らせ

放射線管理士認定試験に合格された皆様、誠におめでとうございます。

さて福島県放射線管理士部会では、会員の募集を行っております。当放射線管理士部会では例年、原子力防災訓練や各健康祭りへの参加により、放射線管理士の知識を実践に生かしています。今後、漏洩線量測定事業や隣県との合同の会合を開き、よりグローバルな展開もしていきたいと考えております。皆様も放射線管理士部会に入会し、一緒に活動しませんか。多数の御入会をお待ちしております。

入会を希望される方は、下記のメールアドレスへお申し込み下さるようお願いいたします。追って福島県放射線管理士部会規約をメールにてお送りいたします。

記

1. 申し込み・お問い合わせ(事務担当)
都路村診療所 菅野修一(電話0247-75-2003)
メールアドレス：
kanno-syuichi-01@vill.miyakoji.fukushima.jp
2. 記入項目(必須項目・様式自由)
氏名・所属病院名等・メールアドレス
放射線管理士番号(後日報告可)
3. 入会金・年会費
特にありません。

あつてはいけない事故、

なくてはならない福島県放射線管理士部会!

支部便り

会津支部

2004健康まつり開催される

「第20回会津若松市健康まつり」が去る9月26日(日)午前9時から「文化センター」にて行われました。

「検診、安心、笑顔の暮らし」のテーマのもと、マンモグラフィの写真展示、パネル展示、相談コーナーを設けました。休日ということもあり、延べ750名の方にお出でいただき、皆さんが日々健康について感心をもっていらっしゃることを改めて実感した一日でした。(彌)



県南支部

新年勉強会並びに新年会開催される

1月29日(土)、ビッグアイ7Fにて新年勉強会が開催され47名と多くの参加者がありました。

第一部は会員による研究発表で8題と多くの発表がなされました。

第二部では今年4月から施行される個人情報保護法についての教育講演が総合南東北病院の飯野克郎氏よりありました。



私たち放射線技師にとっても今後心して取り組んでいかなければいけない重要な法律だけに皆さん熱心に聞き入り、多くの質問が寄せられました。

勉強会後は場所を移し新年会が開かれメーカーさんもお見え、各施設間での交流がなされ和やかな談笑のひと時を過ごしました

(研究発表内容)

1. 循環器ネットワークシステム DVDサーバーの使用経験
○太田西ノ内病院 深谷 理人氏
2. 心臓カテーテル検査における被曝軽減の検討
○太田西ノ内病院 関根 康孝氏
3. 当院のマンモグラフィにおける現状と調査
○白河厚生総合病院 我妻 真一氏
4. 頭部一般撮影における座位撮影の検討
○白河厚生総合病院 齊須 貴之氏
5. TOFによる頭部MRAのプロトコル
○白河厚生総合病院 北島 潔氏
6. グリッドの破損状況調査
○公立岩瀬病院 新井田 哲也氏
7. Min-REVシステム導入による機器改善点と
Min-R2000システムとの画質比較
○総合南東北病院 国分 美加氏
8. LEHRコリメータとLMEGPコリメータの比較検討
○総合南東北病院 三嶋 雅之氏

(教育講演)

『医療・介護機関と個人情報保護法』

講師：総合南東北病院 診療放射線科管理室長

飯野 克郎氏

県北支部

県北支部新年交流会

1月21日、県北支部主催の新年交流会が福島テルサ「あぶくまの間」で行われました。

厳しい寒さの中でしたが、6時30分から始まった会は、斎藤重夫支部長の挨拶のあと、片倉県会長から祝辞と会の現状報告がされ、伊藤県事務局長の音頭で乾杯となり宴会に入りました。参加者は40数名でしたが非常な盛り上がりを見せ、後半恒例の賛助会員の自己紹介と営業PRタイムでは、それぞれお気に入りの会員との一気飲みパーティーとなりました。ただ、参加者の内容が支部役員と賛助会員で大多数を占め、一般会員の参加が少ないという結果になりました。支部の活動を活性化するには会員の参加が不可欠です。魅力ある支部とするための何らかの対策が急務と感じさせる状況です。(佐藤)

浜 通 り 支 部

地区MRI勉強会 開催される

去る平成16年11月27日(土) 渡辺病院において相双地区MRI勉強会が開かれました。

『MRI最新情報 一安全で役立つ最新情報』と題し、東芝メディカル株式会社 金子 敏伸先生の講演がありました。非造影のMRAを中心に、同部位におけるMDCTとの比較では、静止像のMRAに動態的な意味合いを持たせた画像の提示があり、左右差のあるASO等の症例など診断価値の向上につながるものと思われました。また、心臓周囲の撮影は心電同期、呼吸同期を併用することで、冠状動脈のMRA、MRシネによる、ARなどの機能評価等でも有用。造影剤を使用したMDCTと非造影によるMRAの画像比較は、造影のCTAと同等かそれ以上の描出能を呈し、被曝や造影の副作用等が懸念されている現状においてMRI検査の可能性、有用性を実感しました。その後、渡辺病院のMRI撮影室にて、MRI装置および周辺機器の見学をしました。



地区勉強会開催される

去る1月21日(金) 17名参加のもと原町市内のおく山において相双地区の勉強会が開かれました。

『デジタルマンモグラフィの最新情報』富士フィルム(株)ワグナー真樹先生を講師に迎えマンモグラムの画像処理に必要な各パラメータについて説明して頂きました。また、昨年の4月より精中委の施設評価にデジタル画像が導入され評価基準の動向についてや評価項目ごとの点数の違いについて講演を頂きました。

引き続き新年会を行行情報交換など和やかな一時を過ごしました。

いわき地区講演会および新年会開催される

平成17年1月28日(金) 18:30よりいわき平安閣において毎年恒例のいわき地区講演会および新年会が開催されました。講演会はカテーテル導入初期の話題から現在使われている薬剤溶出ステントまでの多彩な内容でした。日常診療上でステントを留置している患者を撮影することもあります。ステントが留置されている患者の冠状動脈をマルチスライスCTで撮影するときの諸問題やMRIで撮影するときメーカーからの保障は得られるのか、さらに薬剤溶出ステントを留置しても手技的に再狭窄を起してしまう場合など事例での話がありました。

講演の後すぐに新年会がはじまり、乾杯の発声を磐城共立病院の前技師長である佐藤氏により行なわれ新年会が開始されました。新年会は仕事や趣味の話などでも大いに盛り上がりました。

なかでも喫煙の話になると、健康を考えて禁煙する人、病院が機能評価を受けるため全館禁煙になりそれがきっかけでやめる決意をする人など、いろいろな面白い話が飛び出しました。これからは病院等の職場内でも喫煙者には厳しい時代となりそうです。

このような会に参加することで病院間での交流を活発化し検査手技や職場環境など様々な話題提供がされれば楽しい会合になり勉強になると感じました。今後の盛況な会の発展を望みます。(呉羽病院 佐藤)



編 集 後 記

昨年は災害の年でした。台風災害、新潟中越地震、スマトラ沖地震と本当に災害はいつやってくるかわからないものです。スマトラ沖地震では二十三万余の方が犠牲となり、その中には家族旅行中の愛知県岡崎市の放射線技師の方もおりました。今年こそは、明るい年にしたいものです。それには、何事にも普段の心掛けがいかに大切であるかを感じている今日このごろです。(鱈)